

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

国語 第133号

—高等学校，特別支援学校対象—

平成27年4月発行

「古典B」における古典（古文）を読む能力を育成する工夫 —課題の解決を図る言語活動を通して—

高等学校学習指導要領国語科における「古典B」の目標は、次のとおりである。

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

古典は、適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべきものである。目標の前段では、古典を読む能力を養うことが、後段では、古典を通して人生を豊かにする態度を育てることが示されている。古典に表れているものの見方、感じ方、考え方には、現代と共通するものや、古文特有、又は漢文特有のものがある。そうした様々なものの見方、感じ方、考え方を読み取ることで、古典はもとより我が国の伝統と文化についての理解を深め、小中学校から「国語総合」まで一貫して育成してきた古典への関心を一層深め、人生を豊かにする態度を育てることにつながる。

そこで、本稿では、現代を生きる生徒が自分の内面を見つめる課題を設定し、その解決を図る言語活動を通して、古典を読む能力を育成する工夫について実践例を基に述べる。

1 本実践における「古典B」の指導事項

本実践は、「古典B」の指導事項ア～オのうち、次のウを取り上げた単元である。

ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

この指導事項ウについては、『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成22年）に、次のように述べられている。

古典には、書き手や文章中の人物の「人間、社会、自然などに対する思想や感情」が、書かれた時代や環境の違いによって、様々に表現されている。そうした思想や感情には、現代にも通じ、生徒からみて共感できるものや、逆に、違和感を覚えたり理解が難しかったりするものもある。また、優れた洞察力や創造性に感動するものなどもある。そのいずれであっても、古典に表れた様々な思想や感情を的確にとらえることは、生徒の「ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」につながる。（下線は筆者による）

本実践は、第3学年を対象に、『風姿花伝』に描かれた思想や感情から、「現代にも通じ、生徒からみて共感でき」、「優れた洞察力や創造性に感動するもの」を捉えることを構想した単元である。単元の最初から最後まで一貫して展開される、現代を生きる生徒に関連する課題の解決を図る言語活動を通して、古典を読む能力の育成を目指した。

2 「古典B」の実践例

- (1) 単元名 「能の秘伝から生き方を探る」
 (2) 教材名 『風姿花伝』世阿弥 ・ 教科書教材：「花伝第七別紙口伝『因果の花を知ること』」
 ・ 補助教材：「第三問答条々 第七問答『文字に当たる風情』」
 (3) 課題の解決を図る言語活動 世阿弥の「因果の花」を現代の文章に書き換えて話し合うこと
 (4) 単元の目標
 ア 古典芸能の秘伝を読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）
 イ 『風姿花伝』に記された秘伝を、表現の特色を理解して読み味わい、現代にも通じる人生観を捉えることができる。（読む能力）
 ウ 文語のきまりを理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）
 (5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
○ 「能」の秘伝を読み味わおうとしている。	① 『風姿花伝』の表現の特色を捉えて読み取っている。 文章の解釈 ② 『風姿花伝』に見られる人生観に着目して内容を読み味わい、自分の生き方について考えている。 考えの形成	○ 文語のきまりを理解し、語彙を豊かにしている。

(6) 単元の学習計画

時 程	学習活動	
1 導 入	1 学習テーマを設定する。 達人の視点に学び、人生に生かそう 2 単元の学習課題を設定する。 「花」について探る ～古人の生き方から自分の生き方を考える～ 3 教科書教材を読んで、単元の見通しをもつ。 ・ 「時分」, 「稽古」をキーワードとして読んで、現代の文章に書き換えたり話し合ったりすることを通して、世阿弥の主張する「花」を明らかにすることを見通す。 【関心・意欲・態度】	見 通 学 し 習 の 活 動
2 展 開 I	1 教科書教材「花伝第七別紙口伝『因果の花を知ること』」を読む。 稽古の必要を説く因果論と「男時」や「女時」といった勝負の流れの存在と、勝負を引き寄せる手立てから、能の場を超えて、世間一般に通用する論理を知る場面 2 「時分」について考える。 調子のよい時と悪い時を見極めるようにすること など 【読む能力①】	知 識 ・ 技 能 の 活 用 を 図 る 学 習 活 動
3 展 開 II	1 補助教材「第三問答条々 第七問答『文字に当たる風情』」を読む。 稽古を重ねることで謡の文句の言葉と演技とが一体となる極めた姿と、「強き能」について述べた場面 2 「稽古」について考える。 謡と舞い方を一体化させることを極めるようにすること など 【読む能力①】	知 識 ・ 技 能 の 活 用 を 図 る 学 習 活 動
4 展 開 III	1 教科書教材と補助教材を併せて、「花」について現代語で序論・本論・結論の型に当てはめて書き換える。 【知識・理解】 2 「稽古」, 「時分」の現代における具体例を考え、1と同様の序論・本論・結論の型でまとめる。 3 グループ内で「現代の『花』のある人」についてまとめた文章を読み合った上でそれぞれの「花」を比較しながら話し合う。 【読む能力②】	知 識 ・ 技 能 の 活 用 を 図 る 学 習 活 動
5 ま と め	1 クラス全体で、各グループの代表が発表する。 2 グループ内で、グループ代表の発表について話し合う。 3 各自で、学習テーマ「達人の視点に学び、人生に生かそう」を踏まえて、次の2点について文章にまとめる。 ・ 世阿弥の生き方・考え方について感じたり考えたりしたこと ・ それを現代の自分の生き方と関連付けて考えたこと 【読む能力②】	振 り 学 返 習 り 活 動

近藤美希教諭（指宿高等学校）が構想、実践した単元に基づき作成

3 課題の解決を図る言語活動のポイント

本実践の課題の解決を図る言語活動は、「世阿弥の『因果の花』を現代の文章に書き換えて話し合うこと」である。

単元の学習活動全体を通して展開される言語活動のポイントについて、見通しの学習活動、知識・技能の活用を図る学習活動、振り返りの学習活動の3点で説明する。

(1) 見通しの学習活動

見通しの学習活動では、本単元で解決を目指す学習課題を設定すること、既に身に付けている知識・技能を確認することの2点が重要である。

ア 学習課題の設定

本単元の学習課題は、「『花』について探る～古人の生き方から自分の生き方を考える～」である。

「花」は、教材の文章に描かれている世阿弥の主張を理解するための最も大切なキーワードであると考えられる。この学習課題は、「花」を探ることが学習の中心であることを示している。

また、「古人の生き方から自分の生き方を考える」の「生き方」については、「時分」と「稽古」の2点から考えさせることにした。

なお、この学習課題は、「達人の視点を学び、人生に生かそう」という学習テーマに基づき設定されている。これは、現代にも通じる優れた洞察力による世阿弥の視点が、生徒たちの豊かな人生につながるのと判断によるものである。このように、学習テーマに基

づいた学習課題を設定することは、生徒たちに自ら解決しようとする意欲をもたせることにつながると考える。

イ 身に付いている知識・技能の確認

本単元では、教科書教材と補助教材の内容を基に、序論・本論・結論の型で現代語に書き換える活動、現代における具体例を考えて序論・本論・結論の型で文章を書く活動、各自の考えを基にグループで話し合う活動を行う。

生徒には、どのように活動していくかを最初に見通させておく必要がある。

本単元において活用する「序論・本論・結論の型で文章を書くこと」や「課題を解決するために話し合うこと」に関する知識・技能は、小中学校及び「国語総合」で既に身に付けていることを確認させることが大切である。

(2) 知識・技能の活用を図る学習活動

本実践の知識・技能の活用を図る学習活動は、展開Ⅰ・展開Ⅱ・展開Ⅲで構成されている。

まず、展開Ⅰでは、教科書教材から、「時分」について読み取らせ、次に、展開Ⅱでは、補助教材から、「稽古」について読み取らせた。

さらに、展開Ⅲでは、「花」について、序論・本論・結論の型(表1)でまとめさせた。序論には「花」において「稽古」と「時分」が大切であることを、本論には「稽古」と「時分」について読み取らせた内容を、結論には「稽古」と「時分」により「花」が生じることを記述させた。

表1 「花」についてまとめた生徒の記述

序論	(世阿弥)は、(能役者)である。(能)における「花」とは、(見る人が感じる魅力的な美しさ)である。「花」を咲かせるためには、「(稽古)」と「(時分)」が大切である。
本論1	(能)における「稽古」の考え方は、(謡と舞い方を一体化させるように極めるようにすること)である。そのためには、(謡のあらゆることに応じて身体を使って自然な舞い方を指すこと)が求められる。(具体例の一つに、「見る」と言う時には、物をしっかりと見て、「指す」・「引く」などというときには、手を出したり引っ込めたりするなど、身体を使い、手を使い、足を使うことである。二つに、謡の旋律と音楽の効果に応じて、身体の動かし方を的確に行うことが大切である。また、師の演じるおりにする)。そのようにして、安定した強き(「能」となり、幽玄の美を感じさせる(「能」となっていると考える。
本論2	(能)における「時分」の考え方は、(調子のよい時と悪い時を見極めるようにすること)である。そのためには、(時の運を恐れず、その時その時にすべきことを的確に判断すること)が求められる。(具体的には、去年花の盛りがあったら、今年は咲かないかもしれないと思い、能にもよいことがあったら、悪いこともあると考える、大事な申楽かそうでないかを判断し、大事な日には最も優れた部分が見えるように演じるべきである)。そうして、「女時」には耐えることができ、「男時」には自分の力を発揮することができると思える。
結論	以上のように、(稽古に裏付けられ、「時分」を捉えることで、最高の表現となり、見る人に美しさを感じさせる)と判断する。

※ 生徒は()の中を記述(原文のまま)

「文章の解釈」に関する「読む能力」が育成されたことにより、このように記述できたと考えられる。この活動を通して、生徒は「稽古」と「時分」を踏まえた「花」についての理解を深めている。

この活動に続けて、表1と同じ要領で、「現代の『花』のある人」について考えたことを表現させた(表2)。この活動は、「考えの形成」に関する「読む能力」の育成がねらいである。

表2 「現代の『花』のある人」についてまとめた生徒の記述

序論	(私)は、(高校生)である。(高校生活)における「花」とは、(進路実現への勉強や友人との思い出)である。(高校生活)における「花」を咲かせるためには、「稽古」と「時分」が大切である。
本論1	(高校生活)における「稽古」の考え方は、(毎日の勉強の積み重ねと信頼関係)である。そのためには、(予習・復習の徹底と、お互いをよく知ること)が求められる。(具体的には、毎日少しずつ勉強し、うちとけ合うことで学校生活も楽しくなる)。そのようにして、安定した強き(高校生活)となり、幽玄の美を感じさせる(高校生活)となっていると考える。

本論2	(高校生活)における「時分」の考え方は、(その時その時を大事にし、無駄にしないこと)である。そのためには、(切り替えをしつかりし、集中すること)が求められる。(具体的には、勉強ばかりは苦しいときもあるからこそ、友人と過ごす時間で気分転換をするなどその時々を充実させることが考えられる)。そうして、「女時」には耐えることができ、「男時」には自分の力を発揮することができると思える。
結論	以上のように、稽古に裏付けられ、「時分」を捉えることで、(進路を実現することができ、友人との信頼関係を築き上げることができると判断する。

この活動を通して、世阿弥の生き方を、現代を生きる自分に関連付けている。

(3) 振り返りの学習活動

本実践での振り返りの学習活動は、学習テーマを踏まえてまとめの文章を書く活動である。

生徒は、世阿弥の生き方・考え方について感じたり考えたりしたこと、それを自分と関連付けて考えたことについて文章(表3)にまとめた。

表3 まとめ文章(抜粋)

世阿弥の生き方・考え方について	・ 「能」において大事な申楽の日に自分の能力を最大限に発揮できるということを身に付けた世阿弥は、やはり能において優れた人であったと思う。
現代の自分の生き方と関連付けて	・ 人は自分の良いところだけを見がちだが、世阿弥のように悪いことも知って、自分の調子によって悪いことを活かしていくのも良いことだ。

(原文のまま)

単元全体を振り返り、文章から解釈した「花」に基づき、現代を生きる自分を見つめながら、感想や考えを書いている。

本稿では、「花」を探るという課題の解決を図る言語活動を紹介した。古典を読む能力を育成するには、本実践のように課題の解決を図る言語活動を工夫することが大切である。

ー引用・参考文献ー

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説国語編』平成22年6月、教育出版

(教科教育研修課)